

映画で考える 戦争と平和 / 第4回

『シンドラーのリスト』授業ガイド

一人の選択が命を救う——『見て見ぬふり』をしない、という選択。』

教員用・指導資料（対象：高校生以上）

本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	一人の選択が命を救う（差別が段階的に進むしくみと、傍観しないことの意味）
教材映画	『シンドラーのリスト』（原題 Schindler's List／1993年・アメリカ／監督：スティーヴン・スピルバーグ）
対象	高校生以上。虐殺・銃撃・裸体（収容所の選別場面）など非常に重い描写を含む（下記参照）
時間	標準100分（50分×2）。作品は195分。 厳選クリップ+あらすじ紹介 を基本に
中心概念	ホロコースト／差別は段階を追って進む／傍観と選択／数ではなく「一人」を見る
ねらい	差別が社会の中で少しずつ進むしくみを理解し、「今、自分にできること」を選ぶ意味を考える
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／ホロコーストの年表（簡易版）／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠ 虐殺描写の扱い（最重要）

本作はホロコーストの実話にもとづき、**虐殺・銃撃・裸体（収容所の選別場面）**など非常に重い描写を含みます。上映時間も195分と長いので、**全編上映ではなく場面を選んだ部分視聴**を強くおすすめします。

- 年齢区分は配信・ソフトにより表示が異なる場合があるため、**上映前に必ず確認**する。
- ホロコーストの**歴史的背景を事前・事後に必ず補う**（ナチスの政権獲得～収容所）。
- 生徒の**心理的負担**に配慮し、視聴を控える選択肢や、気分が悪くなったときの対応を事前に伝える。
- 特定の民族・宗教への偏見を強めないよう、「**差別のしくみ**」に焦点を当てる。

📄 レイティング・著作権について

- 年齢区分は配信版・ソフトにより表示が異なる場合があります。使用予定の版を必ずご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 ホロコーストと「差別の段階」（予備知識）

ホロコーストとは

1933年に政権をにぎったナチス・ドイツは、ユダヤ人などを「劣った人々」として差別し、権利をうばっていきました。第二次世界大戦中には、強制収容所などで約600万人のユダヤ人が殺害されたとされます。

差別は「段階」を追って進んだ

いきなり大量虐殺が始まったわけではありません。言葉による差別 → 権利の制限 → 住む場所の隔離（ゲットー） → 収容所と、少しずつ進みました。「おかしい」と声を上げにくい空気が、それを支えてしまいました。

💡 「英雄」として単純化しない

シンドラーはナチス党员で、はじめは戦争で金もうけをしようとした実業家でした。完ぺきな英雄として描くのではなく、迷い、変わっていった普通の人として扱うことで、「自分ならどうするか」という問いが生徒自身のものになります。

「一人の選択」を考える4つの視点（板書用）

① 差別は少しずつ進む

言葉 → 権利の制限 → 隔離 → 収容所。

② 見て、知って、変わる

目の前の現実を見て、見て見ぬふりをやめた。

③ 数ではなく一人

白黒の中の「赤いコート」が示すもの。

④ 今できることを選ぶ

完ぺきでなくても、小さな行動は選べる。

🎯 この授業の到達目標

差別が段階を追って進むしくみを説明でき、映画の場面を根拠に「傍観しない」ことの意味と、自分にできる小さな行動を考えられる。

4 100分授業の流れ（50分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	「ひどいことが『当たり前』になった社会で、一人に何ができる？」と問う。
10-25分	背景	年表でナチスの政権獲得～ゲットー～収容所を確認。「差別の段階」を板書する。
25-50分	映画を観る①	シンドラーの工場経営／ゲットー解体の場面（厳選・短く）。赤いコートの少女に注目させる。
50-70分	映画を観る②	リストを作る場面・終盤の場面など（厳選クリップ）。
70-88分	ワーク記入	シンドラーを変えたもの、差別を見たときに自分にできる行動を考える。
88-100分	共有・まとめ	板書「『見て見ぬふり』をしない、という選択。」で締める。

🌱 まとめ

ホロコーストは、多くの人の「見て見ぬふり」の中で進みました。シンドラーは完ぺきな人ではありませんでしたが、目の前の現実を見て、自分にできることを選びました。差別は今も、小さな言葉から始まります。その段階で気づき、止めることの大切さを確認してください。

5 映画の背景知識

原題／邦題	Schindler's List ／ シンドラーのリスト
製作年・国	1993年・アメリカ。上映195分。日本公開：1994年。ほぼ全編モノクロ
監督・製作	スティーヴン・スピルバーグ（この作品で初のアカデミー監督賞。監督料は受け取らなかったことで知られる）
受賞	アカデミー賞 作品賞・監督賞・脚色賞・撮影賞・編集賞・美術賞・作曲賞の7部門
原作・実話	トマス・キニーリーの小説（原題 Schindler's Ark）。実在の実業家オスカー・シンドラーが1100人以上の命を救ったとされる

主なキャストと役柄

- ・ リーアム・ニーソン（オスカー・シンドラー役）：抜け目のない実業家が、少しずつ変わっていく姿を演じた。
- ・ ベン・キングズレー（イザック・シュテルン役）：シンドラーの会計係。リストづくりを支える。
- ・ レイフ・ファインズ（アーモン・ゲート役）：収容所の所長。「普通の顔をした加害者」の恐ろしさを体現。

赤いコートの少女

白黒の映像の中で、一人の少女のコートだけが赤く描かれます。大勢の犠牲者の中の「一人」に、シンドラーも観客も気づかされる場面です。特集のテーマ「数字の向こうの一人」と結びつけて扱えます。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. ホロコーストは、なぜ止められなかったのだろう？

→ 「差別の段階」と、声を上げにくい社会の空気に注目させる。個人の悪意だけに還元しない。

Q. シンドラーを変えたものは何だったと思う？

→ 目の前の暴力を「見た」こと、シュテルンとの関係など、映画の場面を根拠に考えさせる。

Q. 今の社会で「見て見ぬふり」をしてしまいそうな場面はある？

→ いじめ・差別的な言葉など身近な例へ。発表は強制せず、書くだけでもよいとする。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- ・ 差別が段階を追って進むしくみを、具体例を挙げて説明できているか。
- ・ シンドラーを「英雄」として単純化せず、変化の過程を読み取れているか。
- ・ 身近な差別や傍観について、自分にできる具体的な行動を考えられているか。
- ・ 意見の発表は強制せず、書いた内容を尊重する（家族の戦争体験などに触れる生徒への配慮）。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	1917 命をかけた伝令	一人ひとりの命の重さ	中学生～
2	西部戦線異状なし	戦争を美化しない目	高校生～
3	ダンケルク	生きて帰るという勇気	中学生～
4	シンドラーのリスト	一人の選択が命を救う	高校生～
5	硫黄島からの手紙	敵にも家族がいる	中学生～
6	ガンジー	暴力を使わずに社会を変える	中学生～
7	ブリッジ・オブ・スパイ	対話と交渉で争いを止める	中学生～
8	ホテル・ルワンダ	見捨てない勇気	中学生～

8 参考資料（主な出典）

シンドラーのリスト 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia「シンドラーのリスト」 <https://ja.wikipedia.org/wiki/シンドラーのリスト>

作品：映画『シンドラーのリスト』（1993年、監督スティーヴン・スピルバーグ）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。